

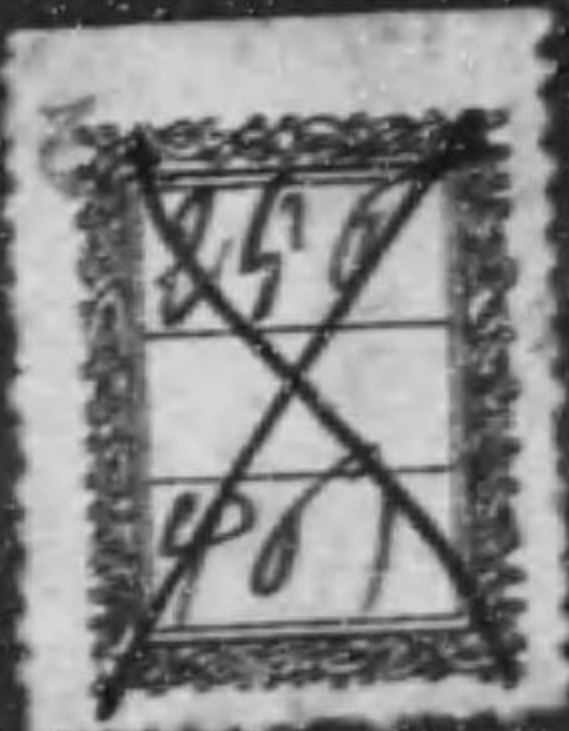
特113

888

高砂

實生正流派校訂

元清作



始



特113
888



勢ヨクスラク

播 二月 三級

高砂

前任手 翁 姫 照

後任手 住吉明神

元清作

乃 孫 派

く 日 行

極 是 名

大正

5. 3. 28

内交

神主 友成 とい 哉 子 也 我 とい 哉
初 とも なる け 福 なる 徳 度 打 ち ぬ ち

此落城ありてあはれ命たあら
 殿をかくれしはまづありきまはまら
 うれもはてしなきあらはるる
 里をいとお待たせよ。老る人老る婦
 妻をい^{カハテ}つらよと成をいふは
 ぬぐふ事なる^{ミテ}おのゝり

早稲物語サラクミツカリ

あくらの何よりあくらの^{ワヤ}
 砂乃本をい何事な本をト^{ニテ}
 叫^{ニテ}く末陰を清めたる高砂
 の松よて^{ワヤ}さる松の江乃
 松ふ相すはる名有。南東と伝者
 とは國をい^ミたるはあふとて

おもはせしきこと申しはる 何の
 こと古今乃序ふこと妙なり
 何のねも相生の極ヨクにおぼえを
 ありきおあがり 洗尉を何乃津の
 國信よしは者こそ成るがこそ
 何乃何あきこと事あらざ申

こと終くしはるやこれに老人の
 生か婦し可又有あがりきをい
 仕にさぬの浦山國をるる
 こと終くしはるやこれに老人の
 生か婦し可又有あがりきをい
 仕にさぬの浦山國をるる
 こと終くしはるやこれに老人の
 生か婦し可又有あがりきをい
 仕にさぬの浦山國をるる

妹背の道をきこの原^ニ侍^レせん
あつても^上覚^レざる^上さ^上砂^上任^上の
その^下き^下を^下紙^下精^下の^下ま^下の^下あ^下も^下お
生^下乃^下名^下を^下あ^下る^下か^下り^下の^下ま^下し^下て^下や
生^下ある^下人^下を^下して^下年^下久^下し^下く^下も
き^下み^下の^下より^下通^下ひ^下別^下る^下縁^下を

34
昔乃人の申しし^上は^上い^上こ^上あ^上い^上ん^上
あ^上は^上り^上り^上置^上く^上それ^上を^上ち^上ら^上ん^上の^上
あ^上を^上た^上る^上お^上し^上け^上松^上の^上物^上が^上つ^上つ^上を^上
ま^上け^上が^上ら^上ね^上き^上ら^上や^上お^上く^上ち^上ら^上ん^上
け^上本^上婦^上と^上ち^上る^上物^上を^上一^上早^上上^上を^上
婿^上に^上本^上籍^上も^上に^上結^上と^上し^上お^上し^上
け^上本^上婦^上と^上ち^上る^上物^上を^上一^上早^上上^上を^上
ま^上け^上が^上ら^上ね^上き^上ら^上や^上お^上く^上ち^上ら^上ん^上
あ^上を^上た^上る^上お^上し^上け^上松^上の^上物^上が^上つ^上つ^上を^上
ま^上け^上が^上ら^上ね^上き^上ら^上や^上お^上く^上ち^上ら^上ん^上
け^上本^上婦^上と^上ち^上る^上物^上を^上一^上早^上上^上を^上
婿^上に^上本^上籍^上も^上に^上結^上と^上し^上お^上し^上

世のたぬ一也
上代乃。萬葉集終りし一の
位者と申ハ。今終結は位終ハ
返す乃は事。松のあぬ
そむたあめ。業あえまが今お
同。と。代も。何ぐも。ま。と。あり

能くまげを有難やと社小書
さるは乃。少るり和らぐ
乃海の。か。こまき子の白
心愛ハ。心。其をいり
も。下。この子小讀。早清浪
志の。あ。國も治まる時
風

校まとあらまぬ法代あれ也河七比
 小おまま乃松うめささるかりも連
 ぶらあふささるももおちり也
ヤラうあよに法ある民とて老の
 あり君乃徳にさる智難まく
アれる言の松乃徳を法物語

ク地高クハニ勢ヨク
 打裁テ
 申せどももるる貴の時をたらん次
 陽まが徳をうめて十南特花
トトテテサシテシテ
独吟サラリ
 松を其氣色とあらまる也
 若葉時をわらぶ也思の時をまる也

皆和歌の法あらはし中みも
 松名萬本と稱せり。十六の
 子姓乃をちりて
 古くは色をいひ始皇の御
 ふあづる程の木ありとて果國
 にも本朝にも万民を教を

〇十八公ハ
 松の字解也

高砂尾上ノ寺ノ鐘ナリ小談
 高砂乃尾乃鐘乃寺あり
 曉の光をく霜を吹きも松の
 花あはれなす海もりも
 陰の影夕もこのももは松の
 せぬ名神あり春の葉乃ちり
 きて色は松の木はるる

ハシテ
 上シテ

世の事ありき家も亦本
世の中も名も世の末代
たのしみもおけは世をめでさ
つるをねる松のえの若
本乃むり歌にて甚ら名
乗終くや 今い何さのほむ
上り先地
引立事
タ

登来是は空砂任の江乃若生
世の精名輝と現ありとを
なりやねる名可乃松の音持
を歌りて 下尊本心赤きれ
おき 賢を代とて 出毛
本も 我大名の國あれが心は

まがて毛髪をのびて。髪をのびて。髪をのびて。
くあまきほく待。くあまきほく待。くあまきほく待。
けある海士乃。小舟に打乗て。
追風は海をゆく。沖のうらた。
歩はまらや。早上。家。砂。や。終。
浦船の帆をあげて。月。結。

ともに出。海。の。波。乃。浪。路。の。湯。
の。髪。也。ま。き。く。あ。る。を。代。沖。を。く。
早。上。乃。は。ま。ら。や。に。ま。ら。や。

我。乃。く。も。久。く。成。ぬ。信。者。の。
岸。の。娘。を。い。く。世。に。ぬ。らん。む。の。
ま。と。君。を。志。ら。ば。や。瑞。の。離。乃。

久しきよふに神のくらから杖の杖
乃拍子を搦つてまきしあなたま
宮づとたら勇ましく伸び大廻りシテ西乃海あまき
河原に浪のりよりシテ下あたらたれ
出神松のまきやみかた雪
けつうが地か葉のるなる

^上まきしは乃シテ松拍は倚くさ
を麻ハバ地子まけ翠シテま
みくらミ梅ハ花を折くシテ頭
まきしは乃地の雪はなほお
有ハ乃屋ハかやハくハ月
^上まきしは乃シテ神遊ハびハ古教ハをハおハ受ハり

たさよミテ上づるさへぐ仕奉は舞姫
乃老もスルほあり任の江乃芳松陰
えうの上地る青海波と下これ
やサテ舞上地神と君とサテ道ミテさぐ
にサテ初ミテのミテまミテきミテゆミテくミテるミテさミテるミテ
そ還坤樂比舞比 一比 叔万歳の

小忌夜ミテさミテげミテのミテらミテあミテよミテハミテ悪魔ミテ
をミテさミテらミテひミテおミテさミテむミテるミテ年ミテはミテらミテ事ミテ
福ミテをミテいミテてミテまミテさミテすミテ千ミテ針ミテ樂ミテハミテ民ミテをミテ獲ミテ
乃松風ミテ颯ミテ々ミテけミテ聲ミテをミテ樂ミテあミテしミテ
く



大正五年三月十五日印刷
大正五年四月三日發行

正價壹册

各金拾錢、

校正者 實生正流

長野市上四之門町十二番地

著者兼發行者 中澤真治郎

長野市上四之門町十二番地

發行所 會真堂

長野市大門町九十五番地

印刷所 塚田友次郎

電話四〇二番

賣捌所 全國各書林



終